

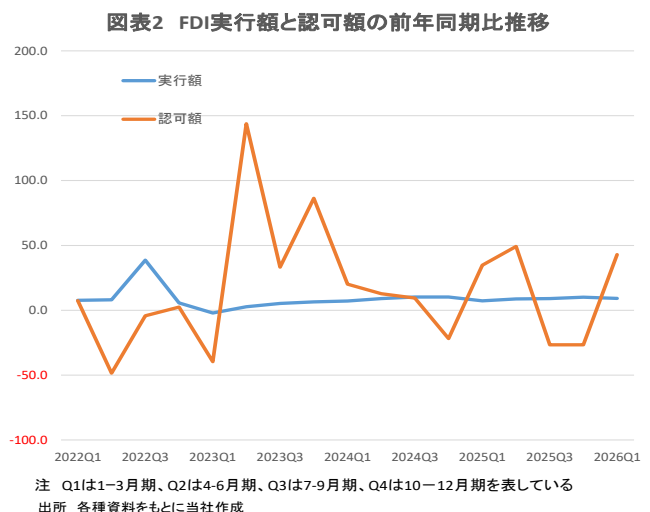
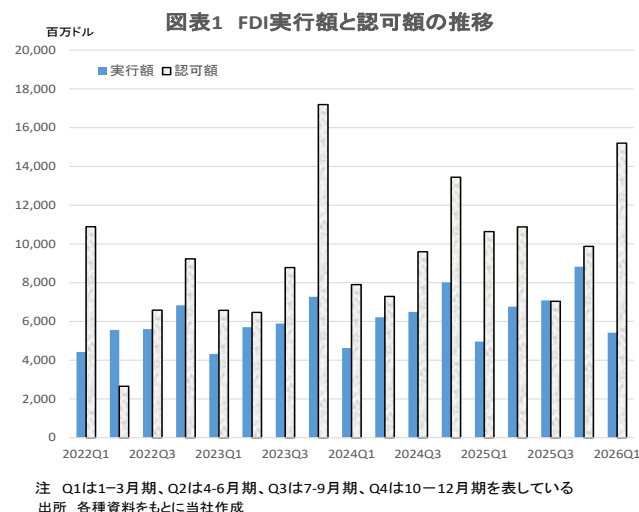
## ベトナムのFDIの動向(2026年1-3月期)



## 《2026年1-3月期のFDI認可額は前年同期比42.9%増》

ベトナムの2026年1-3月期のFDI（Foreign Direct Investmentの略で海外資本のベトナム国内への直接投資を意味する）の実行額（推定値、以下同様）は前年同期比9.1%増の152.0億ドルだった。2025年10-12月期の10.0%増とほぼ同水準の伸びが続き、安定した拡大基調が続いている。一方、実行額の先行指標である認可額は、新規認可額の大幅な増加によって同42.9%増の54.1億ドルとなり、2022年以降では2番目に高い水準を記録した。四半期毎の前年同期比増減率の振れ幅が大きい点を考慮する必要があるが、2025年7-9月期と2025年10-12月期の大幅減から大きく反転しており、米中対立が常態化するという事業環境の下で、グローバル製造業のベトナム進出意欲は高まっているとみられる。グローバル製造業のサプライチェーンの要というベトナムの位置づけは一段と強化され、揺るぎないポジションになりつつあると考えることができるだろう。

2026年2月の米国とイスラエルのイラン攻撃、その後のイランによるホルムズ海峡の封鎖、それに伴う原油価格の急激な上昇が世界経済の先行きの不透明感を強めている。4-6月期以降の生産活動や投資行動に影響が及び、FDIの増勢にブレーキがかかるリスクもあるだろう。しかし、中長期的な視点で見れば、中国と米国の関係がかつてのような良好な状態に戻る可能性は低く、ベトナムの国際的なサプライチェーン上の優位性が大きく低下する可能性は低いだろう。また、ベトナムの経済成長を牽引する輸出において、AIサーバーなどの最先端情報機器のウェートが高まっていることにも留意する必要があるだろう。世界のIT大手企業によるAIへの投資拡大は競争上の必要に基づく戦略的なもので、景気サイクルやインフレの動向から受ける影響は比較的小さい可能性がある。ベトナムにおけるAI関連機器の生産拡大、半導体を含む部品の開発や設計・生産に対する投資が急速に減速する可能性は低いのではないだろうか。環境の如何にかかわらず、地政学上の強みを活かした最先端情報機器の生産拡大、それに伴う能力増強投資がベトナムへのFDIを押し上げ、下支えする状況はしばらく続くと考えられよう。



## ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20260409

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。